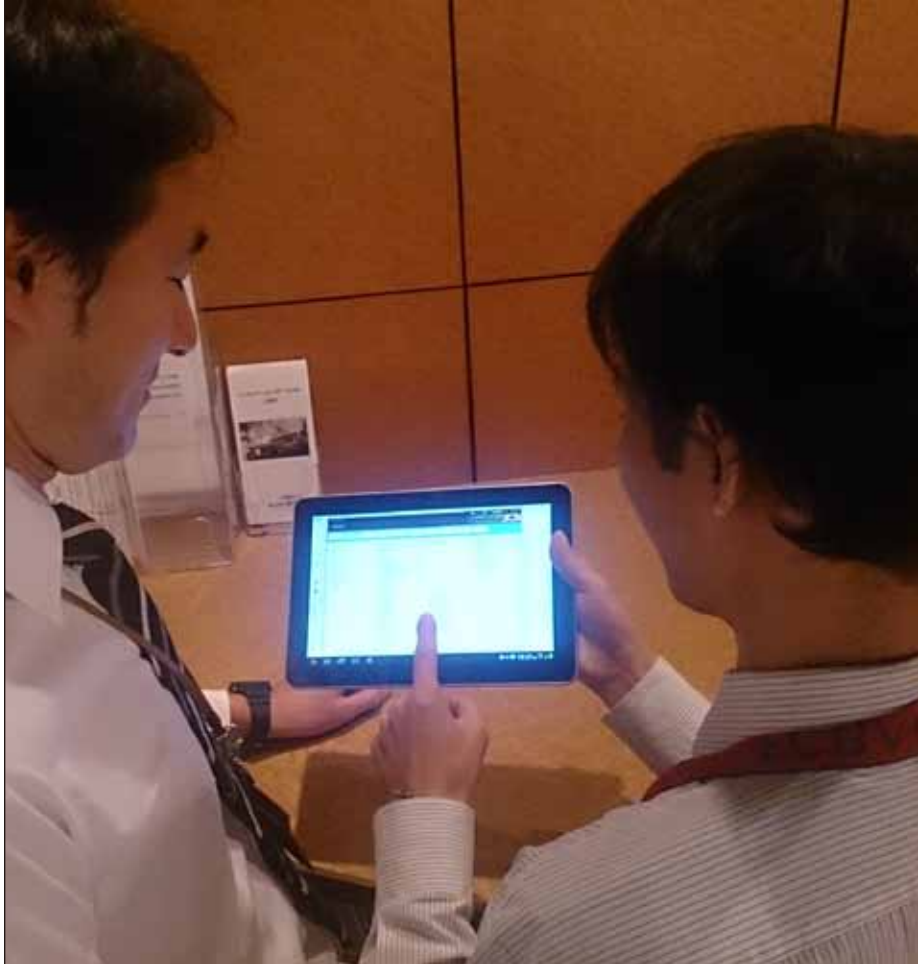




「業務活用」と「セキュリティ対策」の両立に成功 タブレット端末で、劣化フィルムの再生を新提案



導入の背景

「重要な文化遺産を後世に残すことこそ、わが社の使命です」

「弊社でスマートデバイスを導入し始めたのは、2012年の11月頃からです。動画やExcelファイルを開覧する機会が多いため、画面サイズが大きく解像度が高いスマートデバイスの導入を望む声が多くなったのがきっかけでした。」こう話すのは、管理本部 兼 営業統括部 課長 酒見氏だ。

同社は、撮影されたフィルム、ビデオ素材をデジタルデータ化し、デジタル処理にて映像を加工・合成し、再びフィルムやビデオに戻すデジタルインターメディアイト(DI)作業を行っており、提案活動時にスマートデバイスを活用している。劣化したフィルムの動画や写真をタブレット端末の画面に映し出し、紹介するという新しい提案方法だ。「劣化したフィルムの状態を資料でしか紹介することができなかったので、提案時もなかなか具体的なイメージが伝わらないという経験がありました。ですがタブレット端末で動画を活用して紹介できるようになったことで、以前よりもお客様に対する訴求力は高まっていると感じています。」(酒見氏)

提案対象は映画業界だけではない。式典や施工式など記念に撮影されたフィルムが眠ったままになっている企業は多い。DVDやブルーレイに焼き直すことも1つの策ではあるが、その方法ではいつか再生できなくなる時代がく



株式会社東京現像所

株式会社東京現像所

<http://www.tokyolab.co.jp/>

■ 従業員数 : 105名

■ 製品ライセンス : An 50CL Cat 161CL

株式会社東京現像所様は昭和30年4月22日に創業し、その歴史は約50年にのぼる。現在、「フィルム映像部門」においては、映画フィルムの現像・焼き付けを中心として、特殊効果処理、スキャン・フィルムレコーディングなどのメディア変換事業を手掛ける。さらに「デジタル映像部門」ではテレシネ・ビデオ編集・レストア等の他、デジタルシネマ用映画字幕制作、CGなどのデジタル画像処理等、有している映像関連技術は多岐にわたり、映画界の雄である東宝グループの一員として映像業界に貢献し続けている。業界屈指のリーディング企業だ。同社は広範囲の高い技術力を背景に、テレビ局の地上波デジタル放送や、劇場用映画のデジタル制作、デジタル映写など、デジタル映像時代を見据えて新しく生まれる市場ニーズにも対応したソリューションの提供も行っている。



る。だからこそ、同社はフィルム自体の修復の提案活動に注力し、その提案の武器になっているのがタブレット端末だ。

An導入の経緯

スマートデバイスの「ログ管理」を実現できるLanScope Anを選択

社内の情報システムを担当する酒見氏は、スマートデバイスの活用効果を実感すると同時に、セキュリティ面での課題も認識していた。ロケ地に撮影に行く担当者、営業担当者と役員にスマートデバイスを支給しており、その数は50台にのぼる。GALAXY Tabのタブレットに加え、GALAXY SⅢやXperiaのスマートフォンも社内展開している。スマートデバイスは外出先での操作が多いため、紛失盗難を含めたセキュリティ対策はもちろぬ、業務に関係のない利用を管理者として懸念し、対策を打ちたいという狙いがあった。「弊社では以前からPC管理ツールとしてLanScope Catを導入しており、操作履歴の取得はセキュリティ対策、業務外操作の抑止に有効であることを実感していました。PC管理同様のログ管理が必須であると考え、ログ管理機能が高い、LanScope Anを採用しました。」と導入に至った経緯を語る。

An導入効果①

『無音カメラアプリ』の管理を徹底し情報漏えい対策を実現

LanScope Anの管理画面をほぼ毎日確認し、週に1回は詳細画面まで確認し、設定内容の見直しなどを行う。「導入当初に懸念していたアプリ管理ですが、LanScope Anの【不許可アプリ設定】を活用することで問題なく管理できています。会社として利用を義務付けている【サイボウズKUNAI】や【LINE】は必須アプリに登録し、インストールできていない端末があれば、気付けるように運用しています。さらに、【太鼓の達人】などゲーム関係のアプリやカメラアプリは不許可アプリに設定し、インストールや起動した場合にはアラートが表示されるようにしています。業務上、未公開の映像などを扱う機会が多いため、不用意に撮影し情報漏えいに繋がることを懸念し、無音で撮影できるカメラアプリなどの管理は徹底しています。不許可アプリの利用を発見した場合は直接利用者に注意するか、上長に報告し注意を促してもらうようにしています。」(酒見氏)

さらにLanScope Anで収集した電話利用ログにも注意を払い、私用目的の電話利用を確認した際には、「業務に関係ない通話を控えてください。」と社内アナウンスを実施。その結果、導入当初と比較し、確実に私用電話は減ったという。セキュリティ面の効果以外にも業務外操作の抑止、通話料金の削減という効果もあげている。

An導入効果②

端末の現在地の確認に活用紛失盗難対策にも効果的

LanScope Anは操作履歴以外に端末の位置情報も取得可能だ。同社は、30分間隔で端末の現在地情報を自動で取得する設定で運用している。「先日、端末を紛失したという連絡が社員から私にありました。その時にLanScope Anで端末の移動状況を確認しました。飲食店に立ち寄った形跡があったため本人に確認し、そのお店に確認すると端末を発見。位置情報の取得精度も問題なく、いざという時に役に立つので助かっています。」(酒見氏) 端末の紛失、盗難は100%防ぐことはできない。だからこそ、管理ツールを導入し、万が一の時に備え日常的に管理を行うことが重要だと酒見氏は話す。さらに、多忙な業務の中でも時間をかけずに端末管理を実施できている理由の1つに、LanScope Anで社内ルールに違反した端末を自動で判別する機能【警告端末一覧】の存在を挙げる。中でも、不許可アプリが起動した際と位置情報サービスが無効になった際には、管理画面上で「危険」な端末と自動判別するように設定している。この画面があることで、会社として重点的に管理したいポリシーに沿って、端末の変化に早い段階で気づくことができ、緊急時も迅速な対応が可能というわけだ。タブレット端末の利便性が想定以上だったので、今後は増大も検討していると展望を語った。

【LanScope An 移動履歴画面】



【LanScope An 警告端末一覧画面】

名前 (端末名)	端末ID	部署	名前	職別	端末タイプ
内田 健太 (I-229_000000046)	I-229_000000046	営業1課	内田 健太	3年	スマートフォン
北原 智子 (FAR2_000000042)	FAR2_000000042	ネットワーク室	北原 智子	3年	タブレット
山田 健吾 (Phone_000000042)	Phone_000000042	営業1課	山田 健吾	3年	スマートフォン
森 賢二 (Phone_000000042)	Phone_000000042	営業1課	森 賢二	3年	スマートフォン
橋本 孝治 (Pho_000000072)	Pho_000000072	SISシステム課	橋本 孝治	3年	タブレット
小林 寛樹 (Pho_000000071)	Pho_000000071	営業1課	小林 寛樹	3年	タブレット
田村 健吾 (Phone_000000044)	Phone_000000044	営業1課	田村 健吾	3年	スマートフォン
田村 健吾 (Pho_000000077)	Pho_000000077	SISシステム課	田村 健吾	2年	タブレット
大谷 謙理 (Pho_000000078)	Pho_000000078	SISシステム課	大谷 謙理	2年	タブレット
田村 健吾 (Phone_000000042)	Phone_000000042	営業1課	田村 健吾	2年	スマートフォン

エムオーテックス株式会社

【大阪本社】 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-12-12 エムオーテックス新大阪ビル
 【東京本部】 〒108-0075 東京都港区港南2丁目16-4 品川グランドセントラルタワー5階
 【名古屋支店】 〒460-0003 名古屋市中区錦1丁目1-11 名古屋インターシティビル3階

☎ 0120-968995 受付時間 9:00-18:00 (月-金曜日)

お問い合わせ先: